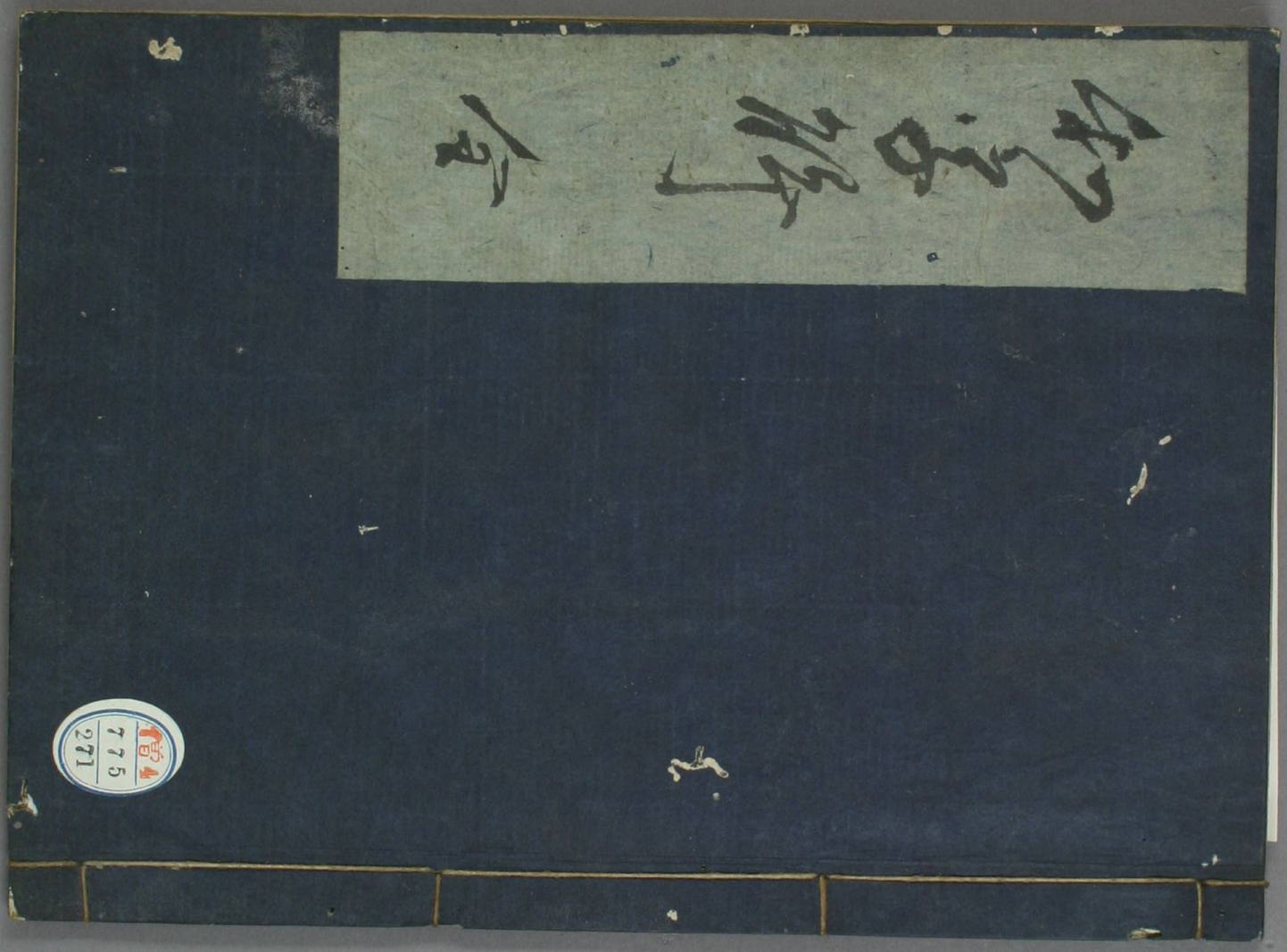

東4
775
271

門 4 音 4
775
271

貝原益軒著述

改正
增補

和字解

摂陽書坊松檜堂藏版

和字解叙

用國字之法先輩既有其書但未知其眞偽或雖傳其眞恐古昔草昧之議論未精詳乎且或數百年之間傳寫之誤失其眞亦未可知何其義理之不明也是以其說往往模糊不通雜沓不專讀者惑矣竊謂天下之事不出乎理外論事者苟不以理斷之則將何以爲據乎哉右和字解一卷採舊說之可用者且考於日本紀萬葉集和名抄古今和歌集等之古書訂之以和

音五十字間加臆說以斷其理只恐僭率之至不免妄謬之罪博雅之君子改正之
惟幸甚

元祿己卯花朝日

貝原篤信書

貝原篤信

大正二年一月吉寄
中村楯雄氏贈

和字解

貝原篤信著

假字遣の法一にハわいうゑおの五字の同音の字を和
音五十字の相通よりて用ゆる字なれ
二にハ五字内ゑおの相重よりて用ゆる字なれ
三にハ同音のかゝりをとりさしてかるゝ
ひの三字ゑをのるの理あるゝ故
理をもつてみだりに用ゆ事なかれ
三理なくして法を定むるハむなしき也古人のなる法式
の法式ハ理なるハ誠なり理なるハ誠
後世の人其理を通ずして
かなをもつてあ用ゆる

さとしハ小児の迷をさとすがごとし　おもひはかるに必ず
其の取をとるべし又庸醫の古方の意をさとしおろしく
みだりに薬を用ひし人を殺すことかならずしも古人の
言葉をよくしらずバたちまち人をあやまるべしかくのごとく
又これ和字を用ゆるもしかりといへどもかなのつかひやう
まことにかなづかひの大法文字の類をあげてここに
かりとなし　和字解開合のうち一巻とし和字を
用ゆる理をしらしむる事とし末学の人の鄙陋のあやまり
みて僭越の罪のがれがたし然ども童蒙の為に
げしく管見に任せてよろしき人の改作を待のみ

凡假字遣を定むるの法あり以に和字五十字の
相通を分ちて是を並べてかなづかひの理を十伸にたつて

縦相通

あいうゑを
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゐゆえよ

うりるれろ
わいうゑを

横相通

あかさたなはまやらわ
いきしちにひみゐりい
うくすつぬふむゆるう
えけせてねへめゐれゑ
をこそとのほもよろを

五類（わいうゑを　ゐまの頭なり）

○わ行は中と下とをけをわも同じ

○いゐのい大概よハさふ甫ゆ
中の甫大概ほられる甫ひみる通ハぬ下る甫ゆ
奥乃ひい文字よりよハきる甫ゆ

○うゐのう
後れふ中と下とを甫ゆれバ音同じ

○へゐのへよりの中と下とふ甫ゆれバ音同じ

○ゑ奥のたゑみの中と下とに甫ゆをほの字と音同

ゑかゑづゑひのゑゑもハ天やゑ山ゑ頭よみゑ口中
奥ハいろはのお後の次中をのくゑをゑ

○い 以（これ）是を口のいとりふいの字ハその音（こゑかろく）軽して弱（よハ）きふ用ゆ
まみれかしらたい忍の下よく此中下ふくきの字よかよふ
字乳いの字を用ゆるま此之板及剣（ちく）のかしらとりふハ
い忍 家 いえ 岩 いらか 甍 いたる 至 いのち 命 いのる 祈 いはふ 祝
いかづち 雷 やうの類ひ紙やす ○蒼（こゑ）の下とハて いわう 帝王
けいこ 稽古 さいちい 辨 かい 開 けい 慶 為い らい 永来 たいすい 大水
くりんたい 後急 頻なり ○割の中しも下こよく さまうよふ字ハ
ついて 序 さいたち 朔日 さいぢ 築地 きさいの宮 后宮 やればい
大 かいまく 垣間見 すいがき 透垣 たいまつ 松明 うれくしい 羨
たのしい 楽 かなしい 悲 うれしい 嬉 おいて 於 ないて 鳴泣

よいかな 宜哉 かいて 書 つゞいて 継 是ハ皆きの字ハ通ふ所い
の字なれバ也すべてかやうのかよふハ惣て一所ぐし 弱字なり
いときとハ横乃通音いきしちにひみ 音ハむいかとか
くハむの行音なりむかいしふ通れを行音よりくひいかと
いふむゆかとハこうん 論じて いせかろう
○ろ 呂 ろうじて
○は 波 是を口のはといふくちびるよもと云 時中 中よりしも下
みくも はの字なれバ畑てはハ同字なりその字わの字
をならべその音の字をもとよむおとそ此字を当べし
たとへバ○ たわむ 又撓 まさりひ 禍 たハふれ 戯 かハ 川 河 かはる 又代 替

いけてア偽かくり傍れり終いハ岩あれ衾あハせる合あ
ハ淡きハむる極究にハ庭みぎくハ汀ぐん凡願やまのそハ山峡かハ絶
さりり障くりんおん観音くりんぎよ還御くりん為宦位にぎりん賑
すぎりん家業くハふん懐妊くハいらう回廊くハ遥くハき快氣
ぐハいふん外周くハへきせる号ふ皆中下ちよ皆ハの字也
○ゑはの音の字をちさよむハびハ琵琶ゑ枇杷よハ衣半これハ
常盤かにハ難波地類りづもこもはまもも置れごも元ようは
の音れ字なもばハの字ま〻〻〻刷りてよむ字よとをと
ハ音羽ゆ〻〻ハ曇羽などゐハふ〻〻ハまも置ごもその字ゆを
もの字ま歴〻〻〻○一説ゑ音の中ゑあるもゑハもの字を

不書或ハくもゑハらう回廊くもゑき快気などハもの字ゆま〻〻〻
いりもあやまりなるも古人のかけるかをかんゑゑ紙をを
人ゑ書ゑ〻〻そのたゑ〻〻なるるゑを知ま〻
○にに○ほ保号をにのほ〻〻ふ大の字御乃字多の字付
ゑなりれ音の下れかるよ〻〻の中下に出かる一字れ音刷
まあ〻れ字号ふもこれあるゑ○大の字付れ字多乃字付
ゑるれとをくかるゑハおほそ〻大空おほ〻多おほち太文おほや
けゑおほち大路おほきよち正親町おほゑき御酒おほんめく〻御恵
おほんため御為おほんへ御贄おほご若菰おほか〻根上間此類れ
れ音のかるゑハ皆ほの字ま〻〻ほ回ゑ回〻○刷の中下ふ

ゆかるとゝいたる（巖）かほ顔ちほ（塩）さほ（竿）ほ掩いろ庵
うろふ（潤）ふるひ（香）さかり（郡氷）かほる（薫）みさを（操）ごほる（滞）
あさがほ（朝顔）ゆふがを（夕顔）こほる（通融）おゝの木（厚朴智朴）うつぼ（靫）
らのかう（調）むゝかへ（入）にかのうゝ（鳴海）ほゝ（頬）うしほ（潮）
ころかひ（比）ゝづき（酸漿和名抄）おほせ（仰）かゝほのいを（借廬）ゐろば
かう（微降）け類皆ほのほ字なるべし いぢもをといふた
りれたるきかを用ゆ○一説に音をそなる字ほの字
を出といへどもそもふかぎる類ゝ（操こかり氷）
ほる通ゐどの類はぬるる音ふあゝざしほの字を用ゆ
皆かゝ中ゝ下ゝ字 并かるよほの字を用ゆる中もゝ

通（こゝろ）の字ゝをゝと出へあまどゝ こほゝ（こなり）賢（いれゝ）初に
あゝこほゝをはふ（ゝ）やはゝよ知るかを説ゝすべ（ゝ）○
一字の音（こゑ）刻（ふゝ）あゝふるかを字ゝ初穂さほ川（佐保川）い
かほ（伊賀保）ゝ（ゝ）ゐ（瑞穂）まゝのかれ（ゝ）松帆浦さほひめ（佐保姫）
にかのうゝ（仁保海）ゝかの松（三保松原）ゝ（ゝ）ゐ（御修法）此類
にはふをといへども皆ほのほ字なるべし○或説（あるゝ）譬の字
いきほひゝ（きゝ）ゝ（ゝ）ひゞ（きゝ）氣生の字なるべし
字を出ゝそでこかれ（袖濡）花のえをり（枝折）はかゝ屋つるゝ
○へ（邊）ゝをとにのへゝふよ（ゝ）の中ふ用ゆるかる三枝あゝひ
ふかゝふ字はへの字書屋（ゝ）ゝひふへほ（縦）の相通なり

○賢(かしこし)思(おもふ)采(とる)据(たまふ)給(たまふ)雖(いへども)柱(はしら)弁(わきまふ)添(そふ)
償(つくのふ)斬(きる)侍(さふらふ)唱(となふ)准(なぞらふ)傳(つたふ)調(ととのふ)愁(うれふ)
捕(とらふ)類(たぐふ)貯(たくはふ)是等へ文字を書べしふの字ふ
更ふなり○又ゆふかふかハへ文字書くえへ文字
書べし須(さえ)消(きえ)萌(もえ)見やゆゑよ縦の相通
なり○又このゆらそゆらかぞゆらなどいふハひがことなりと
のふらかぞふらしと書べし○連(へ)れ字を用ゆ胡(とし)といふましへ
古かゆへ(片枝)まへ(前)うしろへ(後)などの類ハこの字の意なるゆゑ
への字を書べし○中より用ゆるかたハなく(州)かへ(帰)かへ
で(楓)かへり(天範)かへるとなへて(押並)をとこおみなへし(女郎花)

ゆまるへて(押並)なべてゆへるうちかへをかへて(織)
花のゆふべ(夕栄)おろしへをさへ(押)ひとへ(一重)くはへ(加)をしへ(教)
あまびへ(駒迎)是等ふハよりぬ字は中ふハへの字書べし
然類横(よこ)の相通(さうつう)かよりして知るべし
○こ(登)こうじ(冬至)(東寺)こうしん(燈心)
○ち(知)たびぢ(旅路)あはぢ(淡路)のぢ(野路)はぢ(恥)やまぢ(山路)ちや
うぢ(宇治)(大長醸)くわんぢく(巻軸)ぢう(重)げんちやく(還着)とぢ(綴)
ち(治)すぢ(筋)げぢ(下知)かいぢん(凱陣)ふぢ川(関の藤川)ちつ(帙 書物入具)
ぢぞ(帙)ちぢみ(縮)ちん(沈)ぢやうぎ(定規)ぢやうくわん(貞観)ぢ
きぞう(直綴)ぢびやう(持病)ぢよとく(陰目)ろぢ(路地)ぢぢやう(治定)

ぢつきん 眤近 ○りれい 霊鷲山 ○ぎゃうだう 領状
○ぬ 黙 ○る 留 ○を 遠 ○を中のをとゝふ上にあつてをよ
をとかろがるよ田ゆ小の字をよむかるかろがるもの
み前の中下右京亮中のをれ字田田ぢ皆くちぢりより
出るかろがるかるより上くつゝくかろがるくこの字くハ胴よ
り出るかろがるかるがるかるがるふ○をを置をを遅をを囲をを
なを節花をぢづゝ自をのを谷をこなふ行をを後晩
をを丸をを押をを祈をを愚をを同地類
なり○音ハ億音の類皆形祈のをを怪怪音なり○又
應義なるの同なり祈りれるハれゝをこの字

中ぢをぢみををゝゝれをゝこの字ふれの字をうけどゝををを
つれ字まもばかりくなるのよれをの字ををのりれをよ
ハれくのれなもどもまめををこをけどけど中のをの字を
ぬゝかゝゝ山をゝ同じ付頭田かゝ○てにて
のをハひゝせをを田をあゝゝひとをうみ物をゝふ
かすゝとあるをハ付類てれをのをれ字をれゝ物なる中
のをの字を田かゝれゝ○みかゝをなゝをとをの
字をぢゝ片保陵と中ハ形なり序胃陵序小陵など保形なり
万葉集中五巻より保年云巻とかりをハやきめ字なり
ゝまをかゝゝのをの字ゝ同じかゝ成みゝハをれゝて

ひらがなかたかなの字形をとるべし○小乃字形をとるべし
おとハ小野小倉小原小栗栖小塩小椋松島小篠小車
小柳小長谷小松伯父伯母古の類皆中ほどの字用
ひ○ひらがなの中下とハあをとし青こと遠ふと直
たとやう後いさと切そふと直ひとむし蜉蝣うを魚
類皆中のをの字形ほの字形かたかなふきてを用
ひ○ロのほとりみの中下に中のとをとの中
下ふかくまがをやうにえを用ひ○芭蕉頌の和
名抄ふかせをとくよませり古今集抄に名のおふんを
せ紙でこうるとをとくてうかふ門いさ〳〵ゆ〳〵同結まりて日ハ

白ゆるふ病をせ紙で人をよろこばせ入り恭の字ハ
せうのこゝろなりをせ紙をよろこばせ半紙をぜにとよま
蘭とらに剃〳〵文とふとよま〳〵菊花をきくと和
せ形同とおもふ〳〵れうあもば通用をきふ
古人の書を見合て志ゝ〳〵ひ〳〵〳〵○むとの
を琴緒をゞ人のはし緒絶橋をづのをとまれ賤麻手巻こゝの
をゞをこゝのかとふハ年久小財して家尾とうをり尾ハたな
り拍の結ハいをとをの字〳〵○をちこち遠近をちうゝと鳴百十遍鳴
足ゆをとうん○わ和是ゆ後のをとふ音刻とふ上ふ
ゑ〳〵一字ゆよみ上ゑをとハ音ハ

わう 王黄 横狂 おどの類なり 刮ハもう川合もうづく 海壹 もと 牧吾
もうげう 絶 わうち 渡 もうぢまふ 井もうぢ ハひ 禍 此類なり ○一字の
刮とわ 輪回 なり 回ハ万葉に 俺回 よりあり 之輪の俗之稲
仮 柿輪 因御 片輪 磨 轍 轍輪 ものもうの字 ○
みをつり 断 たとつく 思訳 おとまつく 諺 ちわざ 仕業 さもうび
早蕨 ひまず 弱 うつみうび 恨侘 うつもうつ ことわうていもう 帝王
もんわう 親王 だいもう 大黄 ものの音 刮の類 ぢんと二字をあハ
せうづうて ぢ上うけるものの字をもて 下うみうもわの
字を中れう 此ハ中ちうの字 ○或説ふ
ことわざ事業 中ふ ふもうざふ 旅の京 ふ

こもうざかうもうまで 出人 庫 ほふ わざ ちぢれ 物のれ
ぢうもを用ひてことわざ仮よりん

○か 加 かうぐ 桂子 かうちを 香霜 かうげけ 上野 かうけみ 香包
かうく 講師 かうつきく 高力士 かう 鴻 かうぐ 麹 好事 かうちん 幸甚
かうちう 高敷平 かうこぐ 高巾子 かうしん 庚申 かうずい 香水
○よ 余 ○た 多 たうちん 唐人 たう 道 たうじ 湯治 たうふ 豆腐 たう
かうく 番椒 ○れ 礼 れいぢう 霊場 りうぐ 療治 聊爾
○ろ 曹 ○つ 通 ぢて 頭 ぢて 厨子 ぢて 圖 ぢて 圖書 ぢきん 頭巾 ぢぐ
頭陀 ちづく 拵 ぢて 圖 ○ね 念 ○な 奈 なふぐ 納受
○ら 良 らうちぢう 郎従 らうぢ 老中

○む鉾　むの字用ゆるかなの事　むま馬　むもれ木埋木

凡てむとうと通ずなり　むめ梅　百葉にうめともあり和名抄にもうめと訓ずなりむめも同事　むへ宜　百葉にうへとも　武蔵　むね棟

んみな通用なれどむハ武の字なりんハ无の字を略せり　○又きん

君かん上のんで飲よみて讀　うし文字諸ぶむを訓を以て此類をみる

うたハ皆うぬむし用ゆべきなりうとむと通なり

○う字ハ宍とロのうへのうと云訓なりむ字にしてむと云小さの字

とくに此字にも通ずるもみしうれ字ひ用ゆべしうとく

とハ通音をしくさし通ぜ

細　幸　若　ちゝ　恭　鳫　去　蛛

は此類皆うれ字まじへ字事たうくれ又むしくやすふ

かるしもうの字を用ゆ○えんえん抗飯　[illegible]　体類　考

がげ上野　此れむよかゝふかなよう乃字まじへうとむと通ずる

なる也○みふ通ふ字ふもあるたちしかげ上野が　守殿

神あ　此類まう此字まじしうしむと通音也文

旅人藏人高麗人なども此字を事するびんどうんどこま

んどと云へ此けれ音ふりてうとゆるなれびむこ

くらうどこうどとうれ字をうけてし八日もやかしまや

うれけ音からなり十日ハ二銭らなりこう小あんれ十の

字こをとし讀なり　又妹の訓いとうと云いうと云ふべきを

わとともと通じくいもとふもの字なれけ音ハらの字なれ加

いとう字申 いろとハ申すく〇一説いとハ女なりとも申す也
りハふんハ女事なり然るバいとも申べし こゝろを
ハ読む事ハこゝろとハいふ徃かくれなきこの字に〻入音とつ
きくこゝろちくいふうの字ハ出づしまうすとりかすと申
つうれ音ハすむゆふ平上去の三聲の〻入音ハ皆この字を
出ずし東江元上久九韻なりふれ字申づうれ入聲の
〻音ハ于れ字すくべし 皆ハ記〇 世話ハ此の字の訓なり
ひと読みをひづるすれり 皆すれハそよりゆくそらひ
きこえるまやしく形りふの字下ま云くハうとよむ事
まゝ申すくうとよむべきまとそれし 和尚なり

うゐとうせり〇あゐしや出あすとくハ出づうれけをとゝあ
ハうとありあハうみとハ水うしの事なり遠江ともいふこと近
江ハ三とつあハうみ形としを江し淡海のおうと
けり名ハ塩うとある是ハ都ふ近しをうみなうこそけい
近江ハ都ふ近てさけハうみなるうは都ふ遠けれバあれ久しハたなり
あハの久しハけやしてつあなうとゝ云ふへきをくし音ふ
よりくことたうこと いふ
〇ゐ井 是ハ中の音といふ中九ゐとうすゐの字ハ皆一かして
ゐと此音小用せいの字よりおもし 一字のみにゆく依
ゑし音の上一字の音れまみの下ゆくまれふりよりぬ字九せ

極あり○一字の割よりあり字とハ井居猪亥蘭堰膳
此類をかるよりまよい字ゐの字ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ宿直まうゐ
圓居 ゐすゐ叫猪 あすか方飛鳥井 くゐのゐ熊鷹 さ類ゆゐの字
ゆ〳〵是皆一字の用ひ方なり○音の上とハ尤猶有右育
都院市尹負韻音 皆の類なり皆中のゐの字と〳〵
○一説ゐる音ゐの字ゐとゆ院陽市などの類なり〳〵
りなどゑ〳〵そ孔ゐかゑ〳〵ゑ〳〵音の上ハ皆ゐの字を重ねる
○一字乃音〳〵ハ圍位奉威意の類ハ皆中のゐの字也〳〵
○よみの中ゑ孔ゐかよりゐ字〳〵ふきふゑとふ
〳〵ゐ位 ゑれゐゐ紅 ゑれのあゐ もゐる奉にゐゐて新枕 つゐふ位 ゐてゐ

ゐ孔ゆ〳〵ハ元ゆ〳〵ゐ孔ゆ〳〵ゐの字と也
ゐ胡籙 酒とゐゐる強 こゐゐとゐだゐ木居ゐ鷹 きゐゐうゐひ
木居寫 ひきゐて起居 こゐゐとゐ〳〵水居 さゐひ〳〵ゐ〳〵木居〳〵鳴
そこゐ底意 ゐでれ星井出皇 ゐひ〳〵井筒 ゐほゐり大井川〳〵
ゐ雲井 やまのゐ山乃井 ゐゐ志で推栄 ひさゐ額 いゐかひ
言甲斐 ゐゐの猪名野 たゐゐゐ堀 ゐゐ胃 ゐゐ〳〵ハ
○の農 ○れ於 ゑとれく〳〵れゐ〳〵一字の割 悩ゐ
出ゐゐゐ孔ゐ字ゐ上の字ごゐふ大の字と御の字
付ゐゐ字ゐ可ゐゐゐかゐ孔ゐ○一字の割〳〵ハ男
雄尾御峡面 此類ゐ〳〵のゐ孔ゐ字ゐの字ゐて

雄 きのお松尾 かりむ勝尾 このお箕面 きづの花 賤男 みたのお水尾 たかを尾張 かどの類下ふるくもの字を一

○同じくいとりたるの字くみのかうくもを

のかうふと同じくかりたる番ケ ちかたるもの

字を一 ちかけ公 たを一多 ちかけ毫 ちふる生

ちかみ猿 ちかかかふ虎 たを一仰 おほ一思數れ

ふ掩 ちかを中ち丘親可 ちかと擁護 ちう翁應 此類同よ

り発たりたかるくはたの字ちかの字ちかの字ちかの字

字御れ字たるる字 ちかを大 ちたかを大 ちかを凡 ちか

きみ 大君 ちかうち大内 ちかま御前 ちかち祖父大父 ちかるく大形

たるく大臣 おまし御坐 ちかぬさく大麻 ちかんう御神 ちかの川

大井川 ちかるか汪洋 おほんべ御贄

ちか一字又同じくいとりたるちかの中のをたるれ

おちかちやくかくたる ちかたるのたるれ字を

たるのたる通ちかくたるちかの中のと

ちかんべ式先達のいたるちかたるちかたる

ちかをくたるれたるれ字のの人中れをたるのおちかれ

くちかの中ち中のちかくたるちかくたるのちかを

くたる後人の御ちかくたるちかくたる理とと

[illegible]

○凡ゆくゝのれの字下ハ中ばゝ中ゝ[illegible]てはゝ

[illegible]

一字のみは中ゝ下ゝ

ゆくゝのれれ字を半[illegible]

そのゝゝでふゝ[illegible]

○ゝ久○や夜○ま満○け計

ひふ婦[illegible]

字ゝひれ字ふ過ふふふの字[illegible]

[illegible]

数[illegible]

[illegible]

[illegible]

通[illegible]ふの字を去れて○の輩れ字の川青乃下ふ

ふの字ゝ法入葉蝶急押合答閤立の類[illegible]

[illegible]字去べゝ○或院小初の名の引音の字ふを用

[illegible]拍子の拍の字入陣陌の韻[illegible]

[illegible]去[illegible]みゝむ鸚鵡ハあゝむな

[illegible]刎[illegible]やハゝ[illegible]

例○ま[illegible]の字ゝ[illegible]ふの字ゝ[illegible]

[illegible]浅茅生ひふ丹生[illegible]

生[illegible]かち[illegible]

[illegible]侍士[illegible]

此外今欽本にハ かへて 楉 和名 ねふる 眠 ねふるとも云 さゝふ 蒟蒻 かけろふ 蜉蝣
あふぐ 仰 あふぐとも云 あふる 臙 はふり 障泥 あふりとも云 あふぐ
扇 あふぎとも云 ひなた 日向 たふれ 倒れとも云 ○通用のかなに 違 諂
用 瓢 葉 堂 恐 呂 ○ 岩 しせ
右ハ かなのまゝなるべし
○ニ 故 こう 紅 こう と書べし 口上
○江 衣 と中のえといふ一字の韻音なからやぬゆえ
よの字にかふ中のえの字を書かは右のごとしなり ○
一字の訓にハ 江 枝 兄 柄 餌 得 の類なり 又ひえの山 比叡山
きのえ 甲 ひのえ 丙 ほちのえ ことえ 色 ... 数
え 下枝 末枝 ほえ 秋 ... えたの字も一字の門

よろしき詞にハ 中のえの字を書くゆゑに えの字
なれど へのニ字書くへし ○音の頭にハ 永 栄 叡
艶 葉 の類なり 但し音の上ハ大やう えを通用すべし
よるの音の字にも えうと書する所あり
○ゆの字に通ふかな やゆえよ
まゆえ ほひえ ほひゆ 冷え さえ さびえ 聞えきこゆ
おもえ はえ たえ 絶堪 とを
えうおんなるとも えを通ふへし
衛士 えうし 撰 縁 えんの 着役 えんじ 遠寺
しま 傳鳴 えんだよ 艶書 えやいつきし 又 うつくしの 杜乃ち

えの秋うぶとよあらうい　ふびん　かゝ類　面用　とすべ
○て天　いちでふ　一條　一畳　てうし　調子
○あ安　○さ伍　○き幾　○ゆ由　○め目
○み美　○し志　ふじ　富士　うじ氏　ろじ　路次　ろう十
いちでふ　一條
○え恵衛　ゆをゆ　ゆのえ　ふまのから　まみの下ふ
あり　ゆふなよ　ゆかな　一字　れて　ゑ此　ゑ此の字
ゑび　上　半　音も　刑も　えやう　えゑ　面　面　面
○ち　ちみ　ちら　ちり　襟　ひえ　酔　ちゑ　水鶏　刑類　○
刑のトゆふなよ　かな　人ふ　ゑ　撃す　ゑ　まびゑ　捐

ゆ　ゑ　行衛　行末の略　いゑ　家　ゆ類　ゆふなよ　ゆかな　ゑの
字を半　えへ　えへの字　ゑび　うび　ゆふ　ふかふ　ふまふ
○一字の音ハ　恵　會　清　衣　保　壊　此　なり　又　節　會
清　府　大　峯　會　智　恵　輪　廻　刑　字　字の　音　なり　ゑの
字を　ゑび　えの字を　半　て　ゑ　ず
○ひ　非　ひを　ひ　のひ　ひの字　ひ　ひの字　ひ　ひ
ふまの下ふ字　ひ二　ふまの下ふ字　ひ二　ふまの下ふ字
のひを半　○刑のトふ　貝　ひ　ひや　ひ　ひ　ひ
山峡　うぐひす　雷　智　ひ　麥　知　ひ　ひか　水鶏　同上　ひ　鎧　ひ
鯛　ひ　鯉　いひ　飯　ひ　甥　ひ　姪　ひ　ひ　一昨日　ひ　胃　ひ

或あるひ價たましゐ塊よろひ齢つゞらひ禍わざはひ
額とゝゆひ元結 此類ハ皆ひの字なり いの字ゐ
此字也ひろしまずいの字ハてゐのたゐんひの字ハよみの
まぎらはし 音のまゝよみのまゝよりし ○ふふかよ
ふ字ハはひふへほの通音なり取なり ○うへなかふハ
かな形しるしてよろこ字なり あらそふ争 おもふ思 いふ言 おふ負
まなふ侍 たまふ登 やしなふ養 かぞふ数 ならふ習 すくふ救 あなどる
争 あきなふ問 あきなふ商 たぐふ類 うかゞふ伺 かよふ通 よろこぶ悦
使 いはふ厭 いとふ侍 此類ふふかうふかふハみなむくの
ひの字なし ○ひの字をふかしくもよむ

悲あはれむ 棒さゝぐ 歌うたふ 樂たのしむ 貴たふとぶ 神南備
錢ぜに かなぶゐ あまさとこゆる
○ゐ汝 ○せ勢 ○す須 うずさくら 雲珠櫻

○間合の事

音の間合けうと剞の間合あり 音の間合ハそれそれ
たとへはまやらわの字などにつゞけて云事皆なし
あり かり さり たり なり はり まり やり らり わり
の類なり をこなとのほかよのれの字などにつゞきてあるハ
皆合せり とり きり ろり ゐり めり ほり ちり より

[illegible]
東冬蕭蓋尤の五韻ふ屬〳〵る并ゑ三重韻の内
古比平字のトふあれ上聲去聲ハ皆合かなるも
[illegible]をこゝろとのほもよろれはけせて收へめえれは
のなゝる音ゆゑ此韻ふあるかゝるなるはゝ
まゝやゝらゝわゝの知〳〵かるゆゑ東冬の
字皆ゑゝとかゝ〳〵ゆゑ〳〵ぞゝ〳〵合ゆゝ〳〵ハ
同ゑゝ蕭蓋ハ皆せゝゑゝ〳〵ゑゝ〳〵ハ今〳〵ゑ
ゑゝひゝ〳〵ゑゝゑゝ〳〵今〳〵かゝ〳〵ハ同せゝゑゝ〳〵今〳〵みゝゑゝハ
[illegible]合ゑゝわゝ〳〵ハひゝ〳〵〳〵奥の字ゑゝれ
小同せゝ韻とゑゝゑゝて〳〵ゑゝ〳〵む侯韻の同ゑと
駢喉僕投歐ゑゝ皆合かゑと去〳〵はゝかゝらた
ゑゝわゝと同かゑゆゑ〳〵ゆゝ〳〵ず。江香豪陽庚耕清青
此六韻ふ屬〳〵ゑゝ字并三重韻ふ四ゑゝ右六韻の
下ゑゝ上聲去聲ふ屬〳〵ゑゝ字ハ皆同かゑゝ
あゝされゑゝはまゝらわれゑのゑゝゑゝ并れゑゝ并
瑞唐耕清青の三韻比同きゝゑゝゑゝ〳〵
ゑゝ〳〵ゑゝゑゝあゝ中ふやのゑゝゑゝ皆同ゑゝ
ゑゝゑゝ〳〵ゑゝ〳〵ゑゝあゝ〳〵ゑゝゑゝ

○江の韻同韻なれども半同半合なるは後あるべし
いやしく合教なるべし後用ゐべき字書なと考
なるべし同韻なるべし○入聲なる合
治の韻と同なるべし字同かるべし　葉業の教小
屋なるべし合かるべし
○初の句合は半　○同・答
買　塔　句　句
舞　習　補

傳
唱
申
伴
乞
吹
思
鬼

吋
搆
詣
○合ハ
襲
調
昨日
呪

押
参上
倡
句
拾
酔
寅

或説ニ云ふ所のごとくなるべし　こゝをそこなん　○下よ
うゝぎのかゝの事一六かたをつなひのあはひのみ
○六ぢ城きゝとゞのかゝるすに小ほへとをうけるれ
をりてあさしも

文化十三丙子歳五月九日　中村直道写

目録原舊信好古先生　著述

不拘次第非此書限　此外見奇書加者加也

八幡本紀好古　天満宮故實舊信　孝經釈義便蒙　日本歳時記好　諺竹好
和漢事始好　熙例舊　和漢名數舊　同續同　和爾雅好　日本釈名舊
大和本草舊　同附録同　自娛集舊　慣思録同　初學知要　初學詩法
和字解舊　鄙事記　日本良方　五倫訓　續布囊　文武訓　農業全書
三礼口決舊　萬宝秘事記　樂訓　初學訓　家道訓　俗語訓　諸菜譜
二礼童覧舊　孝經釈義便蒙附纂　神祇訓　和學一歩扶桑紀勝
拾物餘話　大和廻記　筑前續風記　筑前名寄　和州嶽嶺圖　奥州松島圖
丹後橋立圖　京都廻記　藝州嚴島圖　吾嬬路記　岐蘇路記　有馬湯山記
養生訓　頤生輯要　五常訓